

THE SAISON FOUNDATION

公益財団法人セゾン文化財団

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス、ヴィジティング・フェローの紹介

セゾン・アーティスト・イン・レジデンスでは、スイスのフリブールで、Festival Belluard Bollwerk のディレクターを務めるエリザ・リープシュ氏をお迎えいたします。

エリザ・リープシュ氏はこれまでに「さまざまな形態の暴力」、「芸術を通じた自己防衛の戦略」に着目したキュラトリアル・リサーチを行い、数多くの企画を手掛けてきました。2019 年から 2024 年まで、ブリュッセルの Beursschouwburg のパフォーミングアーツ部門を統括し、暴力、ストーリーテリング、想像力、抵抗、空間と時間の政治性といった領域にまつわるプログラムを展開。反ファシストの未来をテーマにパフォーマンスやスクリーニング、トークなどを通じて複数のストーリーや証言に触れ、想像力を広げる機会を提供する「Telling Tales. Towards Antifascist Futures」(2024 年)などを企画しています。

今回の来日では日本で、ジェンダーやクィア、家族、国家、土地といった枠組みの中で展開される暴力にまつわる芸術的実践をおこなっている人々に出会い、対話をすることで、自身の視野を広げるとともに、今後の国際的な連帯の可能性を見出したいとお考えです。

滞在期間中、本テーマに基づいて日本の舞台芸術の状況や背景などを理解していただくため、舞台芸術関係者との交流を予定しております。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 滞在テーマ Facing Violence——日本の舞台芸術シーンにおける暴力と防衛戦略
- 滞在期間 2024 年 11 月 25 日(月)ー 12 月 22 日(日)
- 滞在场所 森下スタジオ(東京都江東区森下 3-5-6)

※ 2024 年 12 月 2 日(月)に、森下スタジオにてトークを開催する予定です。
詳細はウェブサイトで発表します。



© Julie Folly

エリザ・リープシュ / Elisa Liepsch (ベルギー / スイス)

Festival Belluard Bollwerk ディレクター、ドラマトルク、プログラマー

2019 年から 2024 年まで、Beursschouwburg(ブリュッセル)のパフォーミングアーツ部門で責任者をつとめる。また、ムーゾントウルム(フランクフルト)では、「Afropean Mimicry & Mockery in Theatre, Performance & Visual Arts」(2014-2016)や「im*possible bodies (2018-2019)」などを企画。フェスティバル・テアターフォルメン(ブラウンシュヴァイク)では、モザンビークや南アフリカ、ナイジェリアのアーティストとのレジデンシー・プログラムを開発した。2010 年から 2013 年にはワイマール国民劇場(ワイマール)のドラマトルギーチームに所属。2010 年の世界演劇祭(ルール地方)で、その芸術監督を務めたフリー・レイセンとともに働いた経歴を持つ。2024 年 10 月、Festival Belluard Bollwerk(フリブール)のディレクターに就任。

主催：公益財団法人セゾン文化財団

公益財団法人セゾン文化財団

〒104-0061 東京都中央区京橋 3 丁目 12 番 7 号 京橋山本ビル 4 階 TEL 03-3535-5566 / FAX 03-3535-5565